

# 『福島の子ども保養』 を出版して

2014年5月28日  
福島県生協連  
西村 一郎  
info@nishimuraichirou.com

## はじめに1

### 1. 私のこだわり

- ①土佐の高知産まれ : いごっそう
- ②ルポルタージュで : 足で書く
- ③生協研究者 : 協同組合や生協は科学になっているか  
震災で生協や職員に何が問われているか
- ④日本科学者会議 : 食糧問題研究委員会委員長  
内部被ばく
- ⑤運動への貢献  
客観的な記録→記憶  
課題のヒント
- ⑥なぜ不条理な人災が発生するのか  
戦争:原爆  
震災:原発事故

## はじめに2

### 2. 震災後の復興本：協同による実践

- ①「**悲しみを乗り越えて共に歩もう**—協同の力で宮城の復興を—」  
(合同出版 2012年3月)
- ②「**被災地につなげる笑顔**—協同の力で岩手の復興を—」  
(日本生協連出版部 2012年10月)
- ③「**3・11忘れない、伝える、続ける、つなげる**—協同の力で避難者の支援を—」(日本生協連出版部 2013年3月)
- ④「**福島の子ども保養**—協同の力で被災した親子に笑顔を—」  
(合同出版 2014年3月)
- ⑤「**宮城の食の復興**—つくる 食べる ずっとつながる—」  
(生活文化社 2014年7月)

\* 今後 70歳までに10冊を

## 今回の出版の意図

- 1、「福島の子ども保養」の**実態を記録**
- 2、支えている人たちの**願いを掘り起こす**
- 3、「福島の子ども保養」のさらなる**発展の課題につなげる**
- 4、**生協のさらなる役割発揮へ**

## 原発事故を考える

- 1、原発事故の**実態**は？ 放射性汚染物質の続く放出
- 2、原発事故は**なぜ発生**したか？ 津波だけが原因か？
- 3、原発事故の**責任者**は？ 東電、日本政府、GE、東芝、日立
- 4、原発事故の**対策**は万全か？

アンダー・コントロールできてない

- 5、**子ども被災者支援法** 形骸化

「東京電力原子力事故により被災した子どもをはじめとする住民等の生活を守り支えるための被災者の生活支援等に関する施策の推進に関する法律」

「**過ちて改めざる、これを過ちと謂う**」(論語)

## 4つの福島第一原発事故調査報告書

	国会	政府	民間	東電
委員会名	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会	福島原発事故独立検証委員会	福島原子力事故調査委員会
委員長	黒川清/元日本学術会議会長	畑村洋太郎/東京大学名誉教授	北澤宏一/前科学技術振興機構理事長	山崎雅男/東電代表取締役副社長(当時)
調査方針	事故及び事故による被害の原因、事故対応、原子力政策の調査検証と、それらを踏まえての提言を行う	事故及び事故による被害の原因の究明と被害の拡大防止及び同種事故の再発防止等の政策提言を行う	真実 (truth)、独立 (independence)、世界 (humanity)をモットーとして、政府と東電の責任を検証する	事故原因を究明し、原子力発電所の安全性向上に寄与するため、必要な対策を提案する
(中間報告)	—	平成23年12月26日	—	平成23年12月2日
報告書提出	平成24年7月5日	平成24年7月23日	平成24年2月27日	平成24年6月20日

## 国連子どもの権利委員会から

日本政府への勧告 1998年、2004年、2010年

「高度に競争的な学校環境が、就学年齢にある児童の間で、いじめ、精神障害、不登校、中途退学、自殺を助長している可能性があることを懸念する」

日本政府は無視！  
続く社会病理

## 日本の子どもは今

### 1、自殺者：警察庁2012年

	小学生	中学生	高校生	大学生	専修学校生等	生徒・学生等計
計	8	78	250	485	150	971
男	5	56	158	386	113	718
女	3	22	92	99	37	253

\* 実行者は、自殺者×3~10倍

### 2、経済的困窮者：文部科学省2012年

就学援助(調査)：小中学生の15.64%

### 3、不登校といじめ

①不登校者：文部科学省 2011年度

小学2万2622人(全体の0.33%) 中学9万4836人(同2.64%) 高校5万6292人(同1.68%)

合計17万3750人

②いじめ：文部科学省 2012年度

小学11万7383件、中学6万3634件、高校1万6274件、特別支援学校817件

計19万8108件

## 協同とは

「一人は万人のために、  
万人は一人のために」?

古代ゲルマン民族の諺

顔のわかる仲間との互助

主語は私

「私は仲間のために、仲間は私のために」

## 福島を被災者を社会の光に

### 1、『この子らを世の光に』

糸賀一雄: 知的障害者福祉の実践家

障害者が、可哀想だから光を当てて支援するのではなく、  
社会の光(希望や目標)にすることが大切

上下関係の支援 → 対等な連帯や協同へ

### 2、福島の子ども保養を、全国各地の子育てのヒントに

① 地域で育む

② 協同で育む